



## つながったトンボの、オス・メスは、どこでわかるの

### つながった先頭はオス

つながったトンボは、ほかのオスにとられないよう、オスが産卵するメスをつかまえたまま飛んでいるのです。トンボのオスは、たいていの種類が、自分のなわばりをもっています。そして、自分のなわばりにメスが入ってくると、しっぽの先にある付属器で、メスの頭の後ろをつかみ、産卵するときまで、つながったまま飛んでいることが多いのです。ですから、頭の後ろをつかまれているのがメス、つながった先頭を飛んでいるのがオスです。

### 腹部のでっぱりでオスが区別できる

トンボをつかまえたときのオス、メスの見分け方は、トンボの羽のつけ根の腹側で、腹としっぽがつながっているあたりを調べます。オスの腹部には、飛び出した部分がありますが、メスの腹部はすんなりして、なめらかです。オスの腹部の飛び出した部分には、交尾器があるのです。交尾器は、オスの精子（オスの性質や体質を伝えるもの）をメス（卵）にわたすとき使う道具です。

ギンヤンマなどは、腹部以外にも、しっぽの先を調べると、オスメスが区別できます。オスは上下に付属器がついていますが、メスは、上にだけ付属器があり、下のほうには、産卵管がついています。トンボの体や羽の色や模様で、オス、メスが区別できるトンボも、多いのです。（監修・中山 周平）

